

カルに注ぐセレンガ河の上流地方に據つて居つたことになつて居りますが、更に遡りますと尙ほ西方に居つたもので彼の西突厥、即ちタラス河の邊を中心にして、それから東方はアルタイの山の邊にかけて勢ひを有つて居りました西突厥の部下として其の地方に散在して居りましたものであります、隋の大業年間になつて西突厥から非常に虐待されて、其爲に東の方に遁れてセレンガ河の畔に落ち着くやうになつたものであります、此外蒙古の地に移りましてからも、直ちに大した勢力を現はしたものではありません、支那で申しますれば唐の玄宗の天寶三四載、西洋紀元七百四十四、五年の頃から勢力を確立したものであります、支那に對しては其の後暫らくにして勢を振ふことになりました、御承知の如く例の安祿山の亂、續いて史思明の亂の起りました時には、唐の爲に力を添へまして、唐は其のお蔭で此の亂を鎮めることが出来ましたので、其の爲め此の時以來唐に對して大した勢力を占め、ひどく横暴を極めたものであります、かの代宗皇帝の如きは天子自身に馬を下つてウイグルの可汗を拜して僅かに長安の掠奪を免れ得た程の屈辱を蒙つたものであります。

唐に對してかく勢ひを振ひましたのみならず西の方は、天山南北兩路の地方、更に葱嶺を越えましたフエルガナ地方にまで勢力を及ぼしたものであります<sup>④</sup>、然るに其後、唐の武宗と云ふ天子の時、即ち西紀八百四十一二年の頃にウイグルに内亂があつて、其内亂の爲に部族が彼方此方に散り／＼になつて逃げ出しました、尤も内亂の爲めのみではなくて、キルギースと云ふ部族が、内亂に乗じて攻込みまして、それが爲に逃れ散じたのであります、兎に角九世紀の中頃に勢力を失つて、外蒙古の地を去つて彼方此方に逃げたのであります、其逃げた時に是から南に向つて行つたのもありますし、西の方へ逃げたのもあります、更に又其の頃北庭といふた處即ち今のウルムチ